



紹介者

峰岸 真澄

リクルートホールディングス
取締役会長 兼 取締役会議長

杉田 浩章

ボストン コンサルティング グループ
マネージング・ディレクター&シニア・パートナー



変化の息吹は生まれている

—昨年、ボストン コンサルティング グループ (BCG) の日本代表を退任してから、BCGのシニア・パートナーと兼務という形で、早稲田大学ビジネススクールの教授の仕事を始めています。

20代後半から40代が中心の社会人学生たちの考え方や価値観に日々触れることで、大変良い刺激を受けています。その中で実感しているのは、かつてのビジネススクールの門戸を叩いた学生と今の学生とでは、その目的が随分と変わってきているということです。かつては、企業でトップマネジメントを目指すという、ポジションへのキャリアアップ志向が強かったと思います。しかし最近では自らの思いを形にするために学びに来た、という学生が多いように感じます。自らスタートアップを興し世の中を変える、ベンチャー企業に加わり社会に新たな価値を創造できる一翼を担う。あるいは今の企業の中で単に経営層になるというよりも、企業の持つさまざまなアセットや経営資源を活用して、社会にもっと貢献できる存在に生まれ変わらせたい、企業を通して大きな価値創造をしたい。そういう思いを持ったアントレプレナー志向の強い人たちが多くに思います。実はBCGを卒業する若者たちもまったく同様です。

そのために、ビジネス全般を学び使いこなせる能力を身に付けたい、アントレプレナー的リーダーとしてやっていく上で自身の思考の軸や思いを突き詰めたい、そして学内外の異なる多様な人たちとの交流を通して新たな視点を学びたい、ということを目指してビジネススクールに入ってくる学生が増えています。そして、多くの経済同友会の方々も、そういった社会人学生の意欲や新しい息吹を感じ取り、学生たちに対する講演やさまざまなセッション参加へのお願いに快く応じてくださっています。将来を担う学生たちを大いに刺激する機会をいただけていることに、この場を借りてお礼申し上げます。

やはり社会にイノベーションをもたらすのは、変化を渴望する意欲に満ちた人材が増えることであり、変化を脅威ではなく機会として捉え、従業員を動機づけるトップマネジメントの役割なんだなあ、とつくづく感じる日々です。

▶▶ 次回リレートーク

井上 慎一

全日本空輸
取締役社長